

令和元年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

令和2年2月7日開催 農業研究開発センター交流・サロン棟

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき、令和元年度に実施した、7つの大課題、25の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

評価委員氏名	
上田 味哥子	奈良県指導農業士会会長
江口 充	近畿大学 農学部長
鶴木 千里	前奈良県消費生活審議会委員
前田 伸一	奈良県指導農業士会副会長
杉山 孝	奈良県農林部長

各研究課題の評価(評価委員の平均値で記載)

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	地域ブランド力を高める薬用作物生産技術の開発	抽苔しにくい優良品種の育成	4.2	3.2	3.6	11.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・優良品種を作ることで増収増益につながると思う。 ・ヤマトトウキの収量増大は重要なテーマだと思う。可能であれば抽苔性だけではなく、生薬としての成分含量に基づく視点でのスクリーニングがあった方が良いかと思う。 				
		実需者の求める高品質な薬用作物生産技術の開発	4.0	3.2	3.2	10.4
		<ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアル（高品質生産向け）を作るのに必要な研究である。 ・薬効成分に影響を与えない栽培技術の確立（農薬散布、施肥等）に期待する。 				
	単味製剤原料向けトウキの省力栽培技術の開発	4.2	3.4	3.2	10.8	
	<ul style="list-style-type: none"> ・単味製剤原料のための省力栽培技術が確立されると非常に有用であると考えている。密植栽培は有効である。ここでも成分分析を行われた方が良いのではないかと思う。 					
宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	4.0	3.2	3.8	11.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・海外に頼っている漢方の材料は高値になっていると聞いている。国内産が作れたらとても良いと思う。 ・宇陀地域で薬草栽培がさかんになることを期待する。 ・県がしっかりリードし、出口となる製薬メーカーの満足度を上げていく中で技術力の向上ができるのではないのでしょうか。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
優良品種 の育成	奈良オリジナルの 優良品種の育成	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	4.8	4.2	4.2	13.2
		<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県では新規就農者がイチゴ栽培を希望する人が多いので、ブランド化の為に新品種は大事である。 ・イチゴのブランド力を強化する研究は奈良県としてぜひ継続的に取り組んでいくべき内容と思う。珠姫のように、良い品種が育成できた時はどんどんプレスリリースし、ブランド力を強化されるべきかと思う。 				
		需要期に安定して開花する小ギクや特色ある奈良ブランド菊の新品種の育成	5.0	4.4	4.2	13.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・菊も年々新しい品種が出てきているように思う。他産地に負けないような品種作りは大事である。お盆や、お彼岸は菊の売れる時なので、その時期に咲かせられるのは良いと思う。 ・イチゴと同様に小ギクも奈良県のブランド力をアピールできる重要な作物である。無側枝系の品種は農家の作業負担を減らし、8月咲のキクは農家にとって大きな収入源となる。今後の成果を大いに期待したいところである。 				
		新たな高品質甘柿品種の育成	4.8	3.2	3.6	11.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・県の特産品としての柿は重要品である。ただ、柿が品種として安定して作れるようになるには年数を要すると思う。継続して作って欲しいと思う。 ・和歌山県に次いで全国2位の柿生産量を誇る奈良県としては、研究成果を大いにアピールしていきたいところである。ただ、交配系統による研究は年月がかかる。 				
	奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.4	4.2	4.0	12.6	
	<ul style="list-style-type: none"> ・海外での日本酒に対する注目度は上がっていると聞く。奈良県のお酒を作って、輸出できるようになればいいと思う。 ・清酒発祥の地である奈良県としては取り組んでおきたい研究テーマである。奈良県オリジナル品種を用いた奈良の日本酒の銘柄が増えることを楽しみにしている。 ・この研究が進んで、実用化になれば新しい奈良ブランドになる。大きく期待したい。 					
遺伝資源の保存と 活用	奈良に歴史にゆかりのある遺伝資源の保存と活用	3.6	3.6	3.8	11.2	
	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい作業であると思うが、大切な事業である。いろいろな作物を守るとともに、新しい品種が出来れば新しい展開があると思う。 ・ジーンバンク事業の重要性を否定するものではない。ただ、継続することが極めて重要なうえにコストのかかる事業ですから、そのコスト面をよく考えて取り組んでいく必要があるかと思う。 					

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
加工商品の開発と加工技術の研究	奈良の特産品を用いたオリジナル加工品の開発	渋柿を原料とする糖蜜漬けの製造技術の開発	4.0	4.0	4.0	12.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・県産の柿を使った加工品はアピールが大きいと思われる。農業者や加工業者にとっても活用できるのが良いと思う。 ・民間レベルでは難しい研究なので、奈良県としてしっかりリードして欲しい。 				
	加工適性を高める栽培技術の開発	柿葉を利用した後発酵茶の開発	4.0	3.6	3.2	10.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・柿の葉寿司は日本全国に知れ渡っていることから、柿の葉のさらなる活用法を探っていくことは大いに意味があると思う。ただ、柿の葉の発酵茶が文句なしに美味しいのであれば特に問題はないのですが、そうでないのであれば、やはり柿の葉の発酵茶の「効能」を明確に打ち出すための取り組みが重要になると思う。 				
		素麺やパンに適した新たな小麦品種の選抜	4.0	4.0	3.8	11.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・麺やパンに向く小麦の生産は各地域でも取り組んでいるように聞いている。素麺に適した小麦ができればより宣伝効果が上がるのではないのでしょうか。 ・奈良県産の小麦をアピールするためには仕方に工夫が必要である。奈良県産小麦を使った三輪そうめんは分かり易いと思う。 				
高品質に繋がる生産技術の開発	機能性を向上させる生産技術の開発	大和野菜の機能性を向上させる生産技術の開発	4.2	3.4	3.2	10.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・とても大事な研究です。各地に同じような品目の生産があるので、独自の機能成分が少しでもあればいいのにとと思う。 ・大和野菜の機能成分がうまく販売にいかされ、奈良県産の農産物の生産拡大につながることを期待する。 				
高品質に繋がる生産技術の開発	輸出向け生産技術の開発	輸出需要向け茶生産技術の開発	4.6	4.0	3.4	12.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・海外輸出はとても良いことだと思う。農家がこの技術をうまく取り込んでいってくれるかが課題かもしれない。 ・新たな販路を海外へとの考えは、非常に良いと思う。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
安定生産 技術の開発	環境変動に対応した 安定生産技術の開発	吸湿剤を使って低コストに施設内の温湿度を調整するシステムの開発	4.2	3.4	3.6	11.2
		<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は温度の低下に伴う結露が原因になることが多いので、成功すれば有用な技術になると思う。 ・出来るだけ早く農家に導入されるよう研究を前に進めて下さい。 				
		遺伝子診断技術によるキク、トマトなどの重要病害診断技術の開発	4.2	4.2	4.2	12.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・より早く病害の発生を見つけられ防除が出来れば、必要以上に農薬等を使わなくてよくなると思う。 ・農家にとっても興味深い研究であり、情報を早く教えてほしい。 				
		計画出荷に不可欠なキクの開花予測技術の開発	5.0	3.6	4.2	12.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・キク切り花生産は、彼岸や盆の数日間というピンポイントで出荷する必要がある。従って、その年の開花予測は非常に重要である。この技術が開発できれば大いにキク生産に貢献すると思う。 ・メッシュ気象情報を利用してキクの開花予測を行うのは面白い試みである。模擬試験で7割程度の精度ということですが、これは画像解析としては低すぎる。今後、更に精度を上げる必要があると思う。 				
省力化技 術の開発	生産者に優しい 生産技術の開発	脚立を使わないカキの低木栽培技術の開発	4.4	3.4	3.8	11.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・低木栽培は良いと思うが、収穫量や味にどのような影響があるのかないのかまで追求して欲しい。 ・脚立を使わないという目標は具体的で良いと思う。 ・脚立を使わないことにより作業性が上がり、面積の拡大及び経営の向上ができる。 				
		障害者が活躍できる「農業」成立条件の提示	4.6	3.8	3.6	12.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の働く場に農業という選択があっても良いとは思いますが、障害者は一人一人の個性が違うので、しっかりとしたマッチングが必要である。福祉側の人の農業への理解がないとむずかしく、受け入れ農家の環境も大事である。 ・農福連携は現在注目される分野であり、方法論を確立しておくことに意義はある。農作業ガイドの作成も有効であろうと思う。ただ、障害者と一言で言っても様々なケースがあり、実際に応用するとなると相当にハードルが高いことも認識しておく必要があると思う。 				
		女性に優しい農業機械の開発	4.6	3.6	3.4	11.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・体に負担の少ない機械はいいと思うが、現時点では単価が高すぎる。 ・費用面の負担を考えると、どの程度の割合の農業経営者が導入を検討されるのか疑問である。 ・農業機械の開発は女性に限らず有用だと思う。開発された農業機械を使うとどれだけ作業効率が上がったのか、数値化して評価しておく方が説得力があると思う。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
環境保全 型農業技 術の開発	環境に優しい 生産技術の開発	天敵を利用した防除体系の安定化	4.4	4.2	4.0	12.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・天敵の利用は有効であると思う。天敵を使った時の防除をどうすればいいのかわかりたい。 ・天敵の利用は重要な研究である。県内に普及できるようなマニュアル化ができれば良いと思う。 ・少ない農薬で栽培することで、有利販売にも効果があるのではないのでしょうか。 				
		土壌微生物による土壌病害防除技術の開発	4.2	2.8	2.8	9.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・どんな作物の土壌病害でも有効なのか、どの病害に対してどの土壌菌が有効なのか研究を進めて欲しい。 ・土壌病害の防除は非常に難しい課題である。微生物を用いた土壌消毒が現実的に使える技術になるか否かについては否定的である。 ・安定生産を行うためにも必要な研究である。 				
	有機農業に活用 できる技術の開発	鶏糞堆肥を用いた養液土耕栽培技術の開発	3.4	1.4	1.2	6.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・鶏糞の処理には堆肥化する方法が良いのですが、大腸菌の発生は困る。 ・やめるのは簡単であり、問題を解決するのも技術ではないのでしょうか。 				
土壌改良に活用 できる技術の開発	水田転換圃場の土壌改良技術の研究	4.8	3.2	3.2	11.2	
	<ul style="list-style-type: none"> ・暗渠があれば有効であるのがわかる。個人ですべての圃場に暗渠をするのは資金面で大変である。 ・農家指導のための基本データの収集と具体的な改善策の提案ができるという点において有用な研究といえる。 					